

KANAGAWA



社団法人 神奈川県建築士事務所協会

URL <http://www.j-kana.or.jp/>

E-mail info@j-kana.or.jp

2012 年
3 月号

VOL.365



HP情報（会員ページ）

○【茅ヶ崎市】建築物の敷地面積のルール変更について

○ホームページ用素材写真の募集について

○【神奈川県】開発許可、建築確認等業務の県西土木事務所での実施について



目次

① ② 建築探訪

③ ④ 今我々にできることは

⑤ 会員建築作品紹介

⑥ 歴史的建造物を訪れて

⑦ ⑧ シリーズ ぶらり町並み散策

⑨ 理事会報告

予算総会開催案内

⑩ 支部長会報告

⑪ 委員会活動報告

⑫ 支部だより

⑬ シリーズ建築Q & A
旅のクイズ

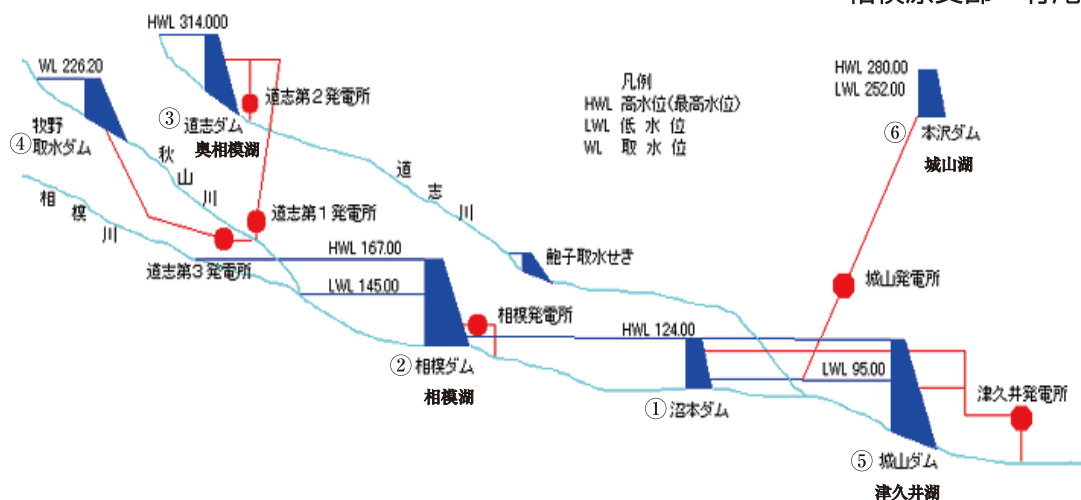
⑭ 事務局便り

編集後記

被災された単位会の仲間へ全力の応援を !!

相模原のダム

相模原支部 竹尾 秀一



3.11以後全国の発電設備について原子力から自然エネルギー利用に目が向けられた。我が町相模原には神奈川県12カ所のうち8カ所が存在している。地元の方でも知らないダムや発電所があるのでは？と思い調べてみました。

年代順に紹介しますと

①沼本ダム（相模川）灌漑・上水道用水・発電を目的として昭和18年に竣工、堰堤高34.5m、堰堤幅126mの重力式コンクリートダムです。昭和40年に下流数キロ先に城山ダム



が完成したことにより沼本ダム本体は半水没してしまいましたが、現在でも調整池としての機能は現役であり、揚水発電用のダムの本沢ダムまで水を汲み上げ電気使用ピーク時のピーク発電を行っています。②相模ダム（相模川・相模湖）補助多目的ダムで昭和22年に竣工した堰堤高58.4m堰堤幅126mの重力式コンクリートダムです。水没戸数が196戸と多く、戦時中に建設が進められたため戦争で一時工事が中断、工事殉職者が56名にのぼるなど、困難を乗り越えての完成だった。相模川で最初の大ダム。本格的な多目的ダムで、戦後の経済復興に大きな役割を果たした。相模湖は相模原市中心部や横浜市、川崎市など神奈川県民の大多数にとって貴重な水がめの一つである。相模発電所(31.000kW) ③道志ダム（道志川・奥相模湖）昭和30年に築造された堰堤高32.8m堰堤幅74.0mの重力式コンクリートダムです。この事業は、県内の水道用水、農業用水、発電用水の確保・増強のため、道志川の水を、道志第1発電所を経由し、流域変更して秋山川に放流し、相模ダムに

流入する流量を増加させるものです。また、ダム下流の鮎子取水堰から横浜市が水道用水を取水する流量を道志第2発電所から、道志川の維持流量をダム直下から、道志川に放流しています。なお現在は、道志川の水は道志ダム上流から道志導水路により、宮ヶ瀬ダムに導水されており、余剰水分を相模ダムに導水しています。道志第1発電所・道志第2発電所・道志第4発電所・道志ダム発電所(合計最大11,659kW)

④牧野取水ダム（秋山川）堰堤高32.8m堰堤幅74.0mの重力式コンクリートダムです。廃止された水力発電所の取水設備として残されていたものを、整備し再活用をおこなったものです。これにより、開発にか



かるコストを削減し、中小水力の開発として道志第3発電所を建設しました（1.000kW）

⑤城山ダム（相模川・津久井湖）昭和40年に竣工し堰堤高75.0m堰堤幅260mの重力式コンクリートダムで



す。相模川の洪水調節、横浜市・相模原市・川崎市及び湘南地域への上水道・工業用水の供給である。寒川取水堰（相模川本川）から相模

原沈殿池（アースダム・18.5m）を経て各地へ送水されているほか、相模導水を通じて宮ヶ瀬ダムや道志ダムとの間で貯水を融通し、効率的な水運用を図っている。ダム天端を国道413号が通過しており、城山大橋とも呼ばれている。国道16号及びJR横浜線 橋本駅等の相模原市中心部へ通じる主要幹線道

路となっている。ダムが幹線道路に使われる例は全国でも珍しい。津久井発電所（25,000kW）

⑥本沢ダム（境川・城山湖）は城山ダムと純揚水式発電を行うダムです。土砂や岩石を堰堤高75.0m堰堤幅260mの高

さに積み上げて築いた中央土質遮水壁型ロックフィルダムで、表面を全体にわたって草が生い茂る。大雨等で貯水量が限界に達したときに備え、左岸には境川への放水路も用意されている。城山湖は下流の城山ダム（津久井湖）としばしば混同される。城山発電所は電力需要の少ない夜間に各発電所で発生する余剰発電分の電力を使用して下流の津久井湖より水をくみ上げておき、電力を必要とする昼間に発電し津久井湖に放流している。揚水発電所の運営が地方自治体による例は極めてまれである。城山発電所（250,000kW）

⑦宮ヶ瀬ダム（中津川・宮ヶ瀬湖）堰堤高156.0m



堰堤幅375mの重力式コンクリートダムです、総貯水容量約2億トンという首都圏最大のダム、計画は難航する補償交渉を経て、計画発表から

29年後の2000年（平成12年）12月に完成した。目的は中津川・相模川中下流部の洪水調節、沿岸農地への慣行水利権分の農業用水補給・中津川における河川生態系保全のための河川維持放流を目的とした不特定利水、横浜市・川崎市・相模原市等神奈川県全体の2/3の地域、県人口の90%への上水道供給、宮ヶ瀬湖から相模川、道志川へと水路で接続されている（相模導水）。相模ダム（相模湖）・城山ダム（津久井湖）・道志ダム（奥相模湖）と連携した管理運営を図ることに



よって、無効放流で無駄になっていた水を宮ヶ瀬湖で貯水することにより水資源を確保する。日本では最大級のダム事業、3町村で移転を余儀なくされた住民は1,136名である。完成以後地域の観光拠点として多くのレジャー施設が設けられている。愛川第一発電所最大出力（24,000kW）

⑧宮ヶ瀬副ダム（中津川・石小屋湖）堰堤高34.5m堰



堤幅87mの重力式コンクリートダムです、2000年（平成12年）に宮ヶ瀬ダムと共に完成した正式名称こそ宮ヶ瀬副ダムであるが、この名よりも別名の石小屋ダム（いしごやダム）と呼ばれる事が多い。ダム湖名も石小屋湖（いしごやこ）と命名された。名の由来はこの辺りが「石小屋」と呼ばれていたためである。目的は宮ヶ瀬

ダムの放流水および愛川第一発電所の放流水を調整し、下流の急激な水位上昇を抑制する逆調整機能（洪水調節・不特定利水）、相模川本川の城山ダム（津久井湖）へ水を導水する、津久井導水路へ水を送水するための水位確保（上水道）である、副ダムが単体のダムとして扱われる例は多目的ダムにおいては宮ヶ瀬副ダムが唯一である。愛川第二発電所（1,200kW）

現在も、神奈川の発電事業では相模川水系、酒匂川及び早川水系において13カ所の発電所の運営をおこない、全国公営電気事業の中では最大の発電規模を有しています。また、県内では電力使用量の約1%程度を担っており、クリーンな水力発電による電力を安定して供給し、社会的な役割を果たしています。そして壮大な景観のあるダム、見栄えのないダム、あまり知られていないダム、再利用のダム、各々のダムが自然と一体化して我々に優しい恩恵を与えてくれていると感じ、関係者のご尽力に感謝いたします。又沼本ダムでは相模ダム管理所古谷次長様の協力を賜り貴重な取材が出来ましたこと御礼申し上げます。

表紙のこぼれ

「人が作った人造物ではあるが自然に溶け込み自然に優しい建造物、大切にして恵みを賜りましょう」

今我々にできることは・・・。

～震災から一年・・・～

川崎支部 折笠 幸男

このお正月を故郷（福島県いわき市）で迎えました。

大震災と原発の被害で、その後どうなったか、聴いてきたことを記したいと思います。

昨年夏も行ったのですが、地域の様子はその時と変わっておらず、震災で壊れた屋根は、ほとんどがブルーシートで覆われたままでした。

全壊・半壊の家は、修理したくても材料や職人が足りなくそのままにせざるを得ないのだそうです。私の実家も基礎部分の一部が崩れ、ジャッキで上げたままになっていました。

また、その集落では、震災で断水になったため市に給水車を要請したところ、ペットボトルの水は大量に配給してくれたそうですが、給水車については水道代を払っていないからダメだと断られた話を聴きました。その集落では湧き水から引く簡易水道を使用していたのですが、水源が断層でずれたため、震災以降ずっと断水だったのです。

「たしかに水道局のお世話にはなっていないが、災害でしょう？」と、義姉は何度も市に交渉に行ったそうです。新聞社にも投書し、やっと11月になって給水用タンク車を借りることができたそうです。あまりの杓子定規の対応に、聴いていて腹が立つというより啞然としてしまいました。

市の中心地の様子は、とえば、今、繁華街の夜が賑わっているそうなのです。賠償金（災害のか原発のかは不明ですが）が入ったので、いわゆる飲み屋さんに来る人たちが増えたのではないかということです。家も修理できず、仕事も減り、やり切れないということなのでしょう。聴いていて切なくなっていました。

現在、市には、原発周辺地から避難してきた方の仮設住宅たくさん建てられました。しかし、義姉いわく、仮設住宅も格差があったそうです。〇〇市から避難してきた方の住宅は長屋式で△△市からのそれは戸建て、というように。しかも道路を隔てたそれほど離れていない場所に建設されているため、避難された方たちの間でも地元の住民からも「なぜ？」という感情があり軋轢を生んでいるそうです。私たちが、テレビで観る岩手県、宮城県の仮設住宅の実態とはあまりにかけ離れているので、これもまた驚いてしまいました。どうしてこのようなことになるのか、元々の原発の恩恵の多い少ないで、このようなことが起こるのか、よくわかりません。

でも、心が温くなる話も聴けました。全国（兵庫、愛知、東京、神奈川等）からボランティアの方が来てくださり、農作業を手伝ってくださったそうです。直後、お金を現金封筒で送ってくださった方もおり、義姉はそのまま大切にしていました。手紙もたくさん読ませてもらいました。本当に温かいものでした。農業未経験のボランティアの方も「かえってご迷惑をかけちゃいますね」と言いながらも楽しんでいったようで、その方たちとの交流も（メールや手紙）が今も続いています。東京のある不動産会社では、社員旅行をボランティア旅行と称し、稲刈りを手伝いに来てくださったそうです。前年の社員旅行は沖縄だったそうですが、社長が従業員6人全員にバイクの免許を取得させ高速道路を走らせて来たとのことで、そのエピソードにも感動しました。この会社の方々とも交流が続いており、再度、手伝いに来てくださった方も多いようです。

震災当初は、自治体主体でのボランティアの受付が間に合わない状態だったのですが、最近では、インターネットで調べながら自分で連絡、のケースが多くなってきたとのことで、自治体にやってもらうまで待ってられないのだと思います。

震災後、友人から「何かできることはないか」と声を掛けていただいたことを兄に話したら「ありがたいね。福島に来ていただいたり、ものを買っていただくことで支援をお願いしたい」との返事が返ってきました。

今、現地では、お米も野菜も放射線量を測りながら出荷しています。

ボランティアの方々と一緒に収穫したお米や野菜は、幸いセシウムは含まれていませんでしたが、検査票に「検出せず」の表示は付いていても売れないのが現状です。売れたとしても買い叩かれて値段は大幅に下げられているそうです。

巷に貼られている「がんばろう、日本！」のラベルが、なぜかむなしと感じてしまうことがあります。支援してくださる方のお手紙に励まされ、ボランティアの方々との交流を楽しみにしながら故郷で頑張っている兄夫婦や地域の人たちのことをいつも気にかけていようと思います。

また、今年の事務所協会旅行を福島にさせていただいたこと心より感謝申し上げます。

今我々にできることは・・・。

～まちづくり・ひとづくり・しごとづくり～

景観・まちづくり特別委員会 委員長 平山 正義

当委員会では、さる2月21日に「まちづくり・ひとづくり・しごとづくり」の勉強会を行い、近い将来神事協が景観整備機構になるための準備として、既に実績のある埼玉会の浅野正敏氏に景観整備機構についての講義を頂いたあと、設計事務所の仕事を広げるときの参考になればとのことで私がこれまで関わったまちづくりの一部を紹介させて頂きました。

講義の後、参加された皆様に4つのグループに分かれて頂きそれぞれ用意したテーマについてディスカッションをして頂きました。短い時間の中たいへん盛り上がり、多くの話題が取り上げられました。ここで話題に上がった内容についてはホームページ、FaceBook等で掲載すると共に引き続き勉強会等にて取り上げていきたいと考えています。

景観整備機構の勉強会は今後も定期的に開催し、景観に関する会員の皆様のスキルアップに役立てて頂くとともに、(仮称)神事協・景観整備に関する受託事業者登録の必修勉強会にしていく予定です。

FaceBookページアドレス：<https://www.facebook.com/k.keikan>

私の事務所ではこれまで住宅地や商店街のまちづくりに関わってきました。(図-1)

住宅地は主に「木造密集住宅地の防災計画」の作成・活動支援です。商店街では、会津若松市「野口英世青春通り」の景観整備・活性化計画の作成・活動支援、モトスミ・プレーメン通りのリニューアル事業や石川商店街環境整備事業などです。

これらに共通する仕事は、①地区内の住民や商店街会員の様々な意向を把握し、利害を調整しつつ合意形成を図り、②基本構想や整備計画を住民と共に作り上げることです。③そうして出来た計画や環境を、守り育てるためのルールをつくることです。これらは当然長い時間が掛かりますし、建築設計と違う作業のように見えますが、条件を把握し、構想し、計画し、実施設計し、メンテナンスすることですから、基本的なことは設計行為と同じだと思えます。まちづくりは範囲が広くとらえどころが難しいわけですが、逆に言えば皆さんの興味のどこかには必ず引っかかるともいえます。そこをきっかけに少しでも広げること、様々な(自分なりの)展開が開けてくるのではないのでしょうか。参考までに、まちづくりの専門分野の一部を列記します。

(コーディネート、マスタープラン作成、土地利用計画、土地地区画整理事業、市街地再開発事業、防災集団移転促進事業、中心市街地活性化、住宅計画、交通調査・交通計画、公園緑地計画、景観計画・景観誘導、地区計画・建築協定、施設・住宅の設計、用地保障、都市計画の手続き、エリアマネジメント、環境・エネルギー、まちづくりに関する法律・ファイナンス・税務、観光振興、福祉、防災等)

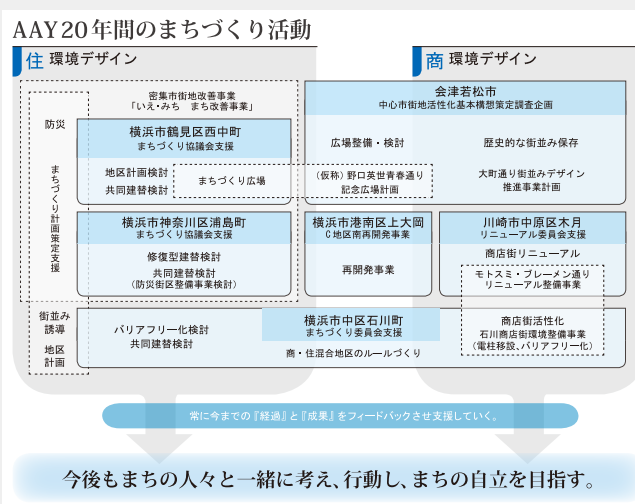


図-1



勉強会の様子

会員建築作品紹介

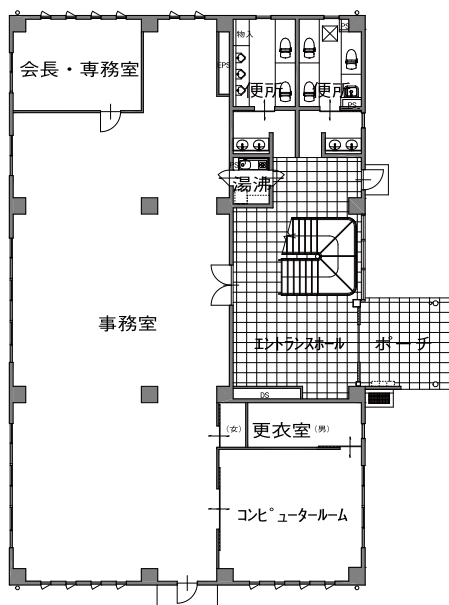


「神奈川県土地改良センター」

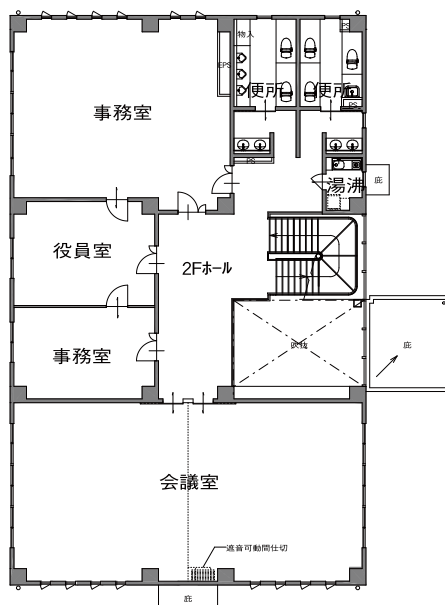
海老名支部 (株)エム建築事務所 三河 樹

圏央道・海老名JCTの整備に伴い建替となった「神奈川県土地改良センター」です。プロポーザル提案のプランとは多少異なりますが、陽ざしがいっぱい入るように配置し、オフィス建築としては、最適と考えます。太陽光発電設備の設置により、去年の電力不足にはタイムリーで多いに活躍しました。

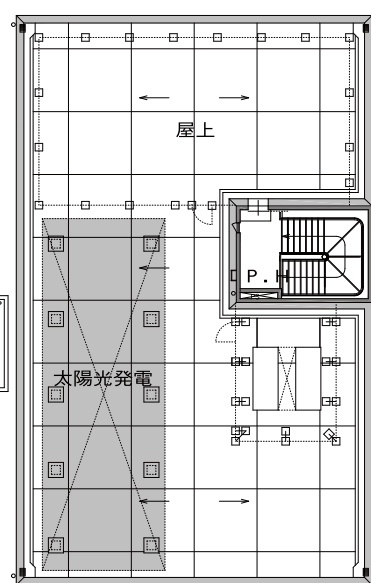
事務棟 RC造2階建 延床面積 628.60㎡
 書庫棟 S造2階建 延床面積 228.00㎡



1階平面図 1/100



2階平面図 1/100



R階平面図 1/100

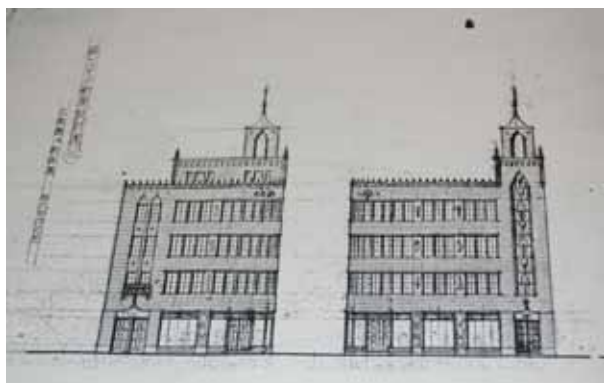


～歴史的建造物を訪れて～

Vol.51

「堀商店本社ビルを訪れて」

横浜支部 佐藤 光良



読者の方は勿論堀金物をご存知ですね。HORIの鍵は皇居・迎賓館や警視庁・刑務所、そして高級ホテルなどセキュリティを特に重要視する建物で採用されている。

その堀商店の本社ビルが数年前に国の重要有形文化財に指定された。新橋駅から霞ヶ関ビルに向かう外堀通り直ぐの交差点際に建つこの建物は、昭和7年国会議事堂の設計主要メンバーで明治外苑絵画館の設計者として知られる小林正紹。但し表立っての設計者は養子に行った弟の公保俊雄になっている。小林は当時公務員だったので弟の名を借りたといわれている。亡くなった先代社長から国会議事堂の設計者が設計したと直接伺った事があった。施工は現安藤建設。外壁は今では懐かしくなったスクラッチタイ



ル張り。横浜山手のベリックホールの外壁でも使われている。震災後残念ながら金網で覆われているが、雰囲気は良く伝わってくる。装飾部には手の込んだデザインが採用され、素敵な雰囲気を醸し出している。歴史を感じさせると同時に飽きさせない。写真で



判のように入口は階段になっているが、戦前の地下鉄工事の落盤事故で地盤が下がってしまい、仕方なく擦り付ける為に階段をつけたとのことだが、踏み面にHのロゴを入れ無理を感じさせない。堀商店は、最初は外国の鍵を輸入販売する事で明治23年2月に創業したが、大正期から鍵の製造を始め、今ではHORIは最高の鍵としてのブランドを確立している。2階には先代社長が世界中から蒐集した歴史的な鍵や珍しい鍵が展示されているが、要予約なので興味のある方は予約をして欲しい。外観写真のグリルは戦時中に供出されたが、文化財指定を前に復活されたとのこと。ショールームには素晴らしい鍵の数々が展示されているので是非訪れて欲しい。また、金属のインテリアグッズや小道具も楽しいオリジナルだ。



●堀商店 TEL：03-5391-6301

営業時間 8：45～17：30

(土日祭日が休業日なのでご注意を)

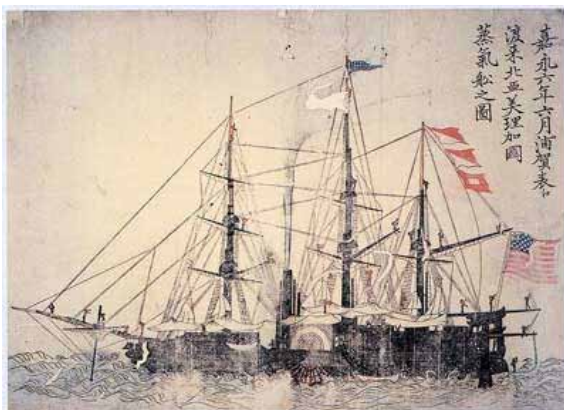
町並み散策ばらり in 神奈川

開国の町 横須賀 浦賀

・・・近代への変革を求めて・・・



約8kmの行程、海の風を感じながらのんびり歩いて下さい。



黒船艦隊



ペリー提督一行久里浜に上陸